

まほろば



2016.6
第178号

「看護の心をみんなの心に」看護の日イベント開催

☆院外イベント「まちの保健室」開催

5月15日の日曜日10時～14時イトーヨーカ堂地下オートスロープ前において、「まちの保健室」と称し、看護の日イベントを行いました。買い物帰りなど80名もの市民の方々が立ち寄り参加して下さいました。

看護部・薬剤部・栄養管理室・臨床検査科・診療放射線科・リハビリ室・事務部とそれぞれの部門が協力し血圧測定、血管年齢測定、骨密度測定、栄養相談やお薬相談などお話を伺いながら心配ごとに耳を傾け、少しではありますが地域住民の方々の健康維持・増進に貢献できたのではないかと思います。また、作業療法の紹介や車いす・松葉杖体験、妊婦体験コーナーでは、親子連れや学生さんが、疑似体験することでその状況、状態で日常生活を行うことの大変さを実感し、相手を思いやることの大切さを知る機会となったようです。

青森県は短命県を返上しようと様々な対策がと

られています。立ち寄っていただいた市民の皆様のごほとんどが、健康について関心が高く、またよい生活習慣を心がけていることがわかりました。これからも地域住民の方々の健康維持・増進に向けての支援につながるようこのイベントを継続していきたいと思っております。

中央手術室副看護師長：奈良岡 貴代子



☆院内イベント「私たちの看護の心を伝えたい」



ナイチンゲール生誕の日5月12日は、家庭や地域に看護の心、助け合いの心が育つきっかけになるようにという願いで「看護の日」として制定されました。毎年当院では「看護の日」に合わせ、患者様に私たちの看護の心を伝えたいという思いで活動をしています。

今年5月9日から13日の看護週間に副看護師長会を中心としてイベントを行いました。病棟では職場紹介として、各部署が大事にしている看護をアピールし、病棟の特性が出るように写真やイラストを交えながら、工夫を凝らしたポスターを提示しました。また、受け持ち患者様に日頃の思いを手書きしたメッセージカードをお渡ししました。患者様の中には、メッセージカードをベッ

トの見えるところに飾り、大切に保管されており、メッセージカードを渡した看護師は、改めて日頃患者様への対応で心がけていることを表現しお渡しできて良かったという感想が聞かれました。外来では、ナイチンゲール像と共に、看護の日の由来を記述したポスター等も展示しました。そしてその日外来に訪れた患者様一人ひとりにメッセージカードをお渡ししました。その際には患者様から当院に対する思いを聞くことができ、日頃の私たちの姿勢を振り返ると共に私たちの看護の心が患者様に伝わるよい機会となりました。



4階病棟副看護師長：間山 明美

新任のご挨拶

4月1日付で看護学校教育主事を拝命致しました。どうぞよろしくお願いいたします。弘前の看護学校は6年ぶりの勤務になります。以前勤務していた頃にちょうどカリキュラム改正があり、学生の教育に夢と希望をもってみんなで編成したことが思い出されます。今そのカリキュラムで展開しており、学生がどのように育っているのか、また育つのか楽しみでもあります。

看護学校の状況を見てみますと、弘前近隣には3校の看護系大学の他、いくつかの看護学校があり、その中で当校の存在意義は、3年課程であること、機構病院で働く看護師を育てることだと思っています。また当校の強みは、母体病院や同じ機構病院で多くの実習ができることです。実習の半分以上

を母体病院以外の施設で行っている看護学校も少なくありません。外に出てみて弘前の看護学校の恵まれた環境が理解できました。「看護は実践の科学」であり、実習なくして看護教育は成り立ちません。学生の実習環境がより良いものとなるよう、臨床と学校がより連携を強めたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

看護学校 教育主事：内山 恵史子



看護学校消防訓練

平成28年5月31日、看護学校にて防災訓練が行われました。今年度は3学年になり、避難誘導者の役割として避難指示や火災時の対応を学びました。

避難誘導者は、非常ベルが鳴ったと同時に速やかに火元場所の確認、通報と同時に消火器を用いて消火を行い、学生が安全に避難できるように避難指示を出していました。また、学内に残されている人がいないか、各教室に呼びかけ確認していました。火災が起こると、避難する人はパニックとなり、焦ってしまうことで正確な判断ができなくなる可能性が考えられます。現状を把握しない

まま、行動することは危険であるため、避難指示をする際には冷静に状況を判断し、落ち着いて指示・誘導することの大切さを学びました。また、避難指示を出すことで、避難する人の精神的な混乱を最小限にすることができ、安心して避難することにつながると学びました。

今回の避難訓練で学んだことを振り返り、日頃から防災について考えて生活していきたいと思えます。

62回生(3学年)：工藤 成美
鈴木 陽子
須藤 絵里



千代田テクノル技術情報セミナーに参加して

先日、当院にて医療スタッフの職業被ばくや放射線管理区域の環境測定等をお願いしている、千代田テクノル株式会社主催の技術情報セミナーに参加しました。

最近の水晶体の放射線被ばくにおける線量限度低減に向けた世界的な動向や、水晶体のみを測定する放射線測定器での試験的な測定の結果等を聞くことが出来ました。

当院でも、この水晶体専用の放射線測定器を試験的に使用した経験もあり、御講演頂いた先生方にたくさんの質問をさせて頂き、これからの課題

を見つけることが出来ました。

水晶体専用の放射線測定器は今後日本でも発売されるようですが、その前に再度試験的に使用し、この測定器の運用・使用方法等改善していくことになるそうです。

一度使用した経験もあることから、当院でもまた測定をさせて頂けるように準備していきたいと考えています。

当院スタッフの水晶体職業被ばく管理の一助となれるように。

放射線科 放射線安全管理者：境 茜



研修医便り

初期研修医 1年目の田淵麻記子と申します。初期研修の始めの2 か月は呼吸器内科で研修させていただきました。国家試験のために培ってきた知識が、いざ臨床の現場になると頭の中で結びつかず日々勉強不足を感じています。

この国立弘前病院は私が学生のころ1 か月実習させていただいた病院でもあるのですが、やはり学生と医師とでは立場も責任も違うためとにかく一日でも早く医療の現場の雰囲気慣れたいと思います。

呼吸器内科では気管支鏡やCV挿入、胸腔穿刺など実践的な手技をどんどんやらせていただきました。しかし一番私が難しいと感じたのは電子カルテの操作方法です。これについ

てはまだまだ不明点が多いですが周りの方に支えながらなんとかやれております。

まだまだ至らない点が多いためたくさんご迷惑をおかけすると思いますが一生懸命やっていきますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。

臨床研修医：田淵 麻記子



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (2016年6月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹
呼吸器科		中川英之	山本勝丸	中川英之	山本勝丸	中川英之
		山本勝丸	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子
		下山亜矢子	-	-	-	-
消化器・血液内科		鎌田耕輔	鎌田耕輔	佐竹立	鎌田耕輔	鎌田耕輔
		松木明彦	松木明彦/立田卓登	松木明彦	松木明彦	佐竹立
		佐藤年信	佐竹立	佐藤年信	秋元直樹	佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	-	石黒陽	石黒陽
小児科		杉本和彦	佐藤工	佐藤啓	佐藤工	杉本和彦
		三上珠希	岡本剛	三上珠希	岡本剛	佐藤啓
外科		田澤俊幸	中井款	田澤俊幸	中井款	三上勝也
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	櫻庭弘康	小田桐弘毅
整形外科	午前	神裕道	秋元博之	秋元博之	休診 (手術)	秋元博之
		工藤整	工藤整	神裕道		神裕道
	大学医師	大学医師	工藤整	工藤整		工藤整
	午後	-	-	-		休診
脳神経外科		-	-	木村正英	-	-
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	●予約	●手術/検査	●予約	●手術/検査	●予約
泌尿器科	午前	神村典孝	神村典孝	弘前大学医師	神村典孝	神村典孝
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		谷口綾亮	丹藤伴江	丹藤伴江	●妊婦健診 (一般外来休診)	谷口綾亮
		阿部和弘	阿部和弘	田中加奈子		松村由紀子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		武田育子/西谷友里	-	-	後藤真一	-
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	-	-	川口英夫 (午後)	-	川口英夫 (午後)
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		-	-	-	今充	-

※学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

若葉萌え 母の介護の 背中押す

(親孝行さん)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

お知らせ

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>